

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100158		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鍋島 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	佐賀市鍋島3丁目14-21		
自己評価作成日	平成28年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年7月22日	外部評価確定日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを、どうぞいつまでも。「お客様のありのままを受け止め、生きてこられた大切な思い出とともにその人らしく、豊かに過ごしていただきたい。」経営母体である(株)ニチイ学館の理念のもとで入居者様一人ひとりの尊厳を重んじた接遇で経営します。
楽しいことがたくさんある毎日を、明るい笑顔で心が通う援助をいたします。お客様が一人ひとり明るく楽しい生活が出来る様にケアスタッフが側面からサポートいたします。◎一緒に近所の買い物や散歩に出かけます。街の人々との会話や、道端の小さな発見も楽しめます。季節の移ろいを体で感じる事が出来ます。◎ホームの敷地内にできる菜園を設けています。野菜や花の成長は感動につながります。◎折り紙、塗り絵、書道等の製作や、カラオケ、体操、ゲーム等は趣味や娯楽などを生かした生活リハビリとして行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

佐賀市西部郊外の新興住宅の中に建つ事業所は、開設から12年経過しているが、清潔で明るいエレベーター付きの2階建て住宅で、外窓は2重ガラスの設えで騒音は全く無い。近隣には24時間スーパーやドラッグストア、郵便局、公園、幼稚園・小学校・中学校、佐賀大学附属病院があり、ホーム前にはバス停があり、交通の便もよく日常生活が営まれるのに快適な環境である。経営母体である(株)ニチイ学館の理念の下で利用者一人ひとりの尊厳を重んじた接遇で、「入居者のありのままを受け止め、生きてこられた大切な思い出とともにその人らしく、豊かに過ごしていただきたい」としている。ホーム前の公園には桜の樹があり、春には園庭の枝垂れ桜と一緒に花見をすることが楽しみとなっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「経営理念」を掲示し毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとして日々の業務で実践している。	「社是」「経営理念」を掲示し毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとして日々の業務で実践している。	経営母体の社是の「誠意・情熱・誇り」と経営理念と、事業所の方針である「入居者の皆様の明るく楽しい生活を提供いたします。」を職員は朝礼時に唱和をし、理念の共有を図り、日々の業務で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり施設近辺の空き缶拾いや清掃を実施している。また地区の小学生との交流会を毎年行いふれあいの時間として大切にしている。	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり施設近辺の空き缶拾いや清掃を実施している。また地区の小学生との交流会を毎年行いふれあいの時間として大切にしている。	事業所の前のスーパーには毎日のように利用者と共に買い物に出かけ、近隣の人々と挨拶を交わしたり、地域の清掃活動に参加する等している。地区の小学校からは授業の一環として交流・ふれあいの訪問をしてもらっている。また、管理者は地区の自治会総会にも出席している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修者の見学や高校生の職場体験受け入れを行い、施設を開放し理解を深めてもらう。また運営推進会議には自治会長や民生委員にもメンバーになってもらい地域の中で情報発信してもらう。	初任者研修者の見学や高校生の職場体験受け入れを行い、施設を開放し理解を深めてもらう。また運営推進会議には自治会長や民生委員にもメンバーになってもらい地域の中で情報発信してもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回実施。ホームの近況報告や行事の案内等を行っている。入居者やご家族からの意見も出たときには対応していく。地域包括支援センターの方にも毎回参加していただく。	おおむね2ヶ月に1回実施。ホームの近況報告や行事の案内等を行っている。入居者やご家族からの意見も出たときには対応していく。地域包括支援センターの方にも毎回参加していただく。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、ホームの近況報告や行事の案内等を行っている。利用者多数の参加を実践し、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員のそれぞれの意見等双方向より出されたものは、事業所の運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中部広域連合や包括支援センターのおたっしや本舗鍋島に出向いていたり、必要があれば連絡、連携をとりながら協力体制を築いている。	中部広域連合や包括支援センターのおたっしや本舗鍋島に出向いていたり、必要があれば連絡、連携をとりながら協力体制を築いている。	中部広域連合や包括支援センターおたっしや本舗鍋島には入居の相談等をして連絡・連携をとりながら、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議で「身体拘束」についての勉強会を毎年行い、絶対身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに理解してもらう。	ホーム会議で「身体拘束」についての勉強会を毎年行い、絶対身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに理解してもらう。	職員は身体拘束の弊害を充分熟知しており、勉強会を毎年行い、絶対身体拘束をしないケアの取り組みを実践している。玄関の施錠もなく、チャイムの音で出入りの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待防止に努めており、ホーム会議で毎年研修を行っている。ニチイでは「虐待はを、しない、させない、見逃さない」をスローガンにスタッフ同士が相互監視をしている。	2016/8/26		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで青年後見人制度の対象者はいませんが、今後ニーズとして出るので成年後見制度の仕組みや、制度の勉強会を通して理解をもつ。	今まで青年後見人制度の対象者はいませんが、今後ニーズとして出るので成年後見制度の仕組みや、制度の勉強会を通して理解をもつ。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけるように取り組んでいる。スタッフから声かけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけるように取り組んでいる。スタッフから声かけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	運営推進会議に利用者と家族に出席してもらっているが、そこで意見や要望等を表してもらっている。また、面会時にスタッフに気軽に話していただけるように気配りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフと個人面談を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	管理者がスタッフと個人面談を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	ユニット毎の申し送りを毎朝、また、ユニット会議と全体会議を月1回行っており、運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者は職員と随時個人面談を行い、疑問や意見等を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップにつながるようにしている。また資格習得に関しても手当として支給するシステムになっている。	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップにつながるようにしている。また資格習得に関しても手当として支給するシステムになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言をうけたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言をうけたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前アセスメントを取ることで職員への受け入れ態勢を整える。	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前アセスメントを取ることで職員への受け入れ態勢を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室等のときは他の事業所の紹介を行っている。	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室等のときは他の事業所の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにより入居の大切にされていたものや好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会時や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようにする。	入居前のアセスメントにより入居の大切にされていたものや好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会時や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようにする。	入居前のアセスメントにより利用者の家族や人間関係の情報収集を行って、これまで大切にされている事を把握している。家族や知人の訪問が多く、買い物や食事等の外出のお誘いもあり、化粧やおしゃれをして出掛けている。また、個人で携帯電話を持参している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院退去の契約終了の場合であっても退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。	長期の入院退去の契約終了の場合であっても退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携して、できるだけ希望に添えるように支援する。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携して、できるだけ希望に添えるように支援する。	職員を担当制にし、利用者の思いを細やかに把握して、ゆっくり話すことを心がけており、意向や希望を汲み取るように努め、できる限り本人の思いに添えるように支援している。2ヶ月毎に送付している「たより」と担当職員の手書きの手紙を家族に送っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や本人から色々話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出していく。	入居前に、ご家族や本人から色々話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にあった生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。	入居前にあった生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れながら介護計画に反映させていく。	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れながら介護計画に反映させていく。	利用者本人や家族からの希望や要望を聞き、日々の身体状況を把握して、本人がよりよく暮らせる現状に即した介護計画を作成している。評価や計画の見直しもきちんとされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や消防署からの指導や自治会長さんからの地域での話しを傾聴しながら地域資源を利用しながら安全で豊かな暮らしをサポートしている。	避難訓練や消防署からの指導や自治会長さんからの地域での話しを傾聴しながら地域資源を利用しながら安全で豊かな暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応を引き受けていただいている。	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応を引き受けていただいている。	利用者や家族が希望する病院での受診を優先し、入居前のかかりつけ医の受診継続も可能である。事業所の協力病院は24時間対応され、月に2回の往診、精神科は4週に1回の往診、歯科は週に1回の往診があり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し医療機関や、訪問看護との連携を行い、適切な対応を行っている。	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し医療機関や、訪問看護との連携を行い、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映する。	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映する。	重度化した場合や終末期のあり方については入所時に説明をし同意を得ている。ご家族の意向を取り入れながら医療機関と訪問看護師と連携を取り、ホームでできる支援をしている。現在までに看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や非常食、簡易トイレ、水など災害時の準備をしている。自治会長とも災害時の対応など話し合っている。	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や非常食、簡易トイレ、水など災害時の準備をしている。自治会長とも災害時の対応など話し合っている。	消防署の指導の下に昼夜の火災の想定で、年2回消火と避難訓練を実施している。地域住民の協力も得ており、市からの避難場所も提示されている。近日中に消防機関へ通報する火災報知設備を整備する予定である。また、災害に備えての飲料水や非常食を3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	利用者本人の人格を尊重した声掛けや言葉かけに注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮してケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと、入居者の希望を融合させながら希望に沿うようにする。	業務の流れと、入居者の希望を融合させながら希望に沿うようにする。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保する。	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や、希望、季節のもの等を取り入れながら食を楽しんでもらう。また配膳や、食器拭きなど入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	入居者の嗜好や、希望、季節のもの等を取り入れながら食を楽しんでもらう。また配膳や、食器拭きなど入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	管理栄養士によるチェック済みのメニューが毎月本部から送られてくるが、利用者の嗜好や希望を取入れ、アレンジして提供している。買い物にはユニット毎に利用者と一緒に出かけ、利用者一人ひとりができることを手伝うことで日々の暮らしを実感できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。	毎日の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行える体制をとっている。	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行える体制をとっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導等を支援している。夜間も利用者が安全にポータブルトイレでの排泄ができるよう、トイレのふたに取り付けてある鈴の音で職員が駆けつけて支援できるよう工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保を行い、適度な運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し必要に応じて医師の指示を仰ぐ。	水分量の確保を行い、適度な運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し必要に応じて医師の指示を仰ぐ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(夏場に毎日入りたい人は夜間のシャワー浴を行う)	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(夏場に毎日入りたい人は夜間のシャワー浴を行う)	利用者が希望されれば、毎日の入浴もできるよう支援している。夏場はシャワー浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じて就寝時間を対応。寝付けない人はリビングで水分補給をしていただいたり、職員と話をしたりして落ち着いてから就寝していただく。	入居者に応じて就寝時間を対応。寝付けない人はリビングで水分補給をしていただいたり、職員と話をしたりして落ち着いてから就寝していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩等も入居者と一緒に行っている。	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩等も入居者と一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	食材の買い物の同道、小物の買い物やドラッグストアへの外出の希望があったり、公園等へ散歩に出掛ける等日常生活の中で外出する機会を設けている。家族のお誘いも多く、化粧やおしゃれをして出掛ける利用者もいる。その他、季節の花見やドライブや外食等を計画して年4～5回出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所で行っている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをもらっている。	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所で行っている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は本人が書かれたものは基本的に投函している。また職員が代筆を行うときもある。電話に関しては、希望があれば事務所の電話を使用してもらってる。	手紙は本人が書かれたものは基本的に投函している。また職員が代筆を行うときもある。電話に関しては、希望があれば事務所の電話を使用してもらってる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	リビングとキッチン是对面で見守りがしやすいよう工夫された設えである。明るく清潔で、高床の畳の間もあり、落ち着いた雰囲気である。壁には季節を感じる装飾と、利用者の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共有部分に和室があるので利用していただく。	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共有部分に和室があるので利用していただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾っていただきその人らしさ、個性を大事にして居室内を快適に過ごしていただく。	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾っていただきその人らしさ、個性を大事にして居室内を快適に過ごしていただく。	居室内は、利用者の使い慣れたタンス、机やソファを持ち込み、壁には写真や思い入れのある飾り物をしている。嗜好品を入れる冷蔵庫を持ち込み、日々の暮らしを快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
		2016/8/26		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない